

第131号

副会長挨拶
三河女性役職者会会長挨拶
総務委員会
研究会・研修会の報告
今後の研究会・研修会のご案内
三教研ホームページのご案内

教育



認め合う中で育つ心

三河教育研究会 副会長 犬塚 清隆

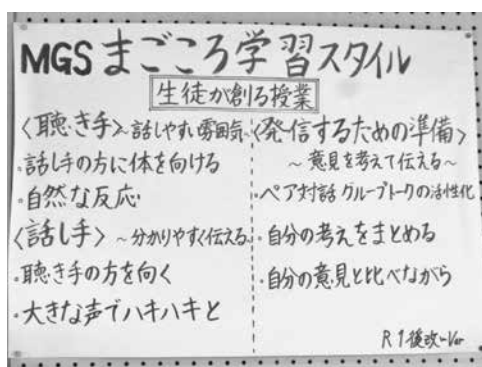


不登校の児童生徒数は、年々増加の傾向にあります。その要因はさまざまですが、児童生徒及び保護者の声に傾聴することや温かな寄り添いを心がけることは、何よりも大切にしたいことです。学校は児童生徒にとって学ぶことや友達と関わるのが楽しく、通いたくなる場でないけません。また、児童生徒一人一人の居場所が教室にあり、学級が穏やかな人間関係を形成する場であればなりません。さらには、自己肯定感や自己有用感が育まれるような教育活動を、全教職員が足並みを揃え、同一歩調で展開していくことが望まれます。そして、教育活動の核となる授業に、日々、力を注ぐことは、最も大切なことであります。

授業の中では、自己内における対話、他者との対話（ペア及びグループ活動から全体発表など）が繰り返され、考えを練り上げる活動が行われています。本校（刈谷・朝日中）では、生徒会の発案により、全校討論会で決議された『まごころ学習スタイル（MGS）』が各学級に掲示されています。これは、聴き手、話し手をより意識することを旨とした話し合いの姿です。このような仲間を認め合う活動を通して、お互いの立場を尊重し合い、信頼関係を築き上げることができているように思います。

どの生徒にも、その生徒なりの学び方があります。授業に対する私たちの柔軟な姿勢を大切に、生徒一人一人の非認知能力を伸ばすことができる授業づくりに力を注ぐことは、重要なことと考えます。こうした日常的な取り組みの積み重ねが、やがては、不登校の児童生徒数の減少につながることを願っています。

最後に、「教育 みかわ」第百三十一号に掲載される頃には、新型コロナウイルスの感染状況が少しでもよい方向に転じていることを祈るばかりです。



目ざす話し合いの姿

毎日の授業づくりに思う

三河女性役職者会 会長 壁谷 由美



私たちはこれまでも、子どもたちが自らの意思で動く姿を願い、教育活動を進めてきました。新学習指導要領の実施に伴い、さらにその積み重ねをと考えていた矢先、否応なくウイルスと共存しなければならなくなりました。膝を寄せ合って対話することもままならない中、それでも、子ども同士が関わり合いながら「主体的に動く場」を多く設定するには、どうしたらよいのでしょうか。

私は、子どもたちの「主体的な学びの姿」を問うとき、ある学校で目にした算数の授業の光景が頭に浮かびます。その学級では、授業に臨む子どもたちの顔つきが違っていました。手元には、さまざまな紙に書かれた図や表などが。それぞれが今日の授業のために、家庭で用意してきたものでしょう。授業が始まると、「ここまでではこう考えたんだけど、ここからが……だから助けてください。」と自力解決できなかったことを堂々と話す子。また、自分の考えを話してはみたものの、他の子の説明を聞いて誤りを理解し、「今日は、○○さんのおかげで間違いに気づきました。ありがとうございます。」と感謝の気持ちを伝える子。そんな子どもたちの姿を目の当たりにし、これこそが「主体的な学びの姿」なのだと心が熱くなりました。そして、その姿を引き出したのは、紛れもなく教師の教材研究の深さと確かな授業力、そして良好な人間関係を作り出す、日頃の地道な積み重ねの賜物であると感じたのでした。

昨今、あまりにも急速な社会の変化に追いついていけず、不安を感じることが多々あります。教育に求められることが多様化している現実も、私たちに重くのしかかります。しかし、子どもたちに、将来を見据えたしっかりとした力をつけようと思うならば、教師自身が子どもの反応を楽しみに感じ、思わぬ子どもの発想の豊かさに心躍らされるための授業づくりに手をかけなければなりません。それは、個々の教師の努力にまかせるだけでは無理があります。働き方の変革が求められている今こそ、授業づくりや教材研究にかける時間の確保、内容の検討が見直されるべきではないかと思えます。

これは、中途半端な取り組みばかりだったことが、今になって悔やまれる私たちの、切なる願いでもあります。

「教師の主体性と創造性を 大切にした授業」

― 令和二年度 研究会・
研修会について ―

研修会について―

総務委員会

総務委員会では、五月の定期総会（紙上開催）以降、役員会・常任委員会を開催し、常任委員会の活動計画や各部会・委員会の活動の充実について、協議を重ねてまいりました。

本年度の研究会・研修会については、新型コロナウイルス感染症対策のため、各部会・委員会ごと状況に応じて、「実施」、「冊子による発表・開催」、「来年度への延期」、「講演会のみWEB配信」、「本年度中止」などの判断をさせていただきました。まずは、三河の各学校の先生方が、目の前の子どもを大切にできる環境を整えながら、それぞれの活動の充実に向けて動いています。また、本年度はホームページの充実にも取り組んでいます。各地区から学習指導案や実践だけでなく、動画などのデータも積極的に掲載していく予定ですので、ぜひご活用ください。

また、授業力養成講座については、八月に予定していた夏季講座を中止しました。現在、秋季講座の開催に向けて準備しているところであります。

今後、本年度だからこそできる活動を目ざし、研究を推進してまいります。

研究会・研修会の報告

国語

言葉に対する見方・考え方を広げ、
学び合い、深め合う授業

本年度、左記のように計画していましたが、来年度に延期としました。

令和二年度

国語部会夏季研修会

場 所 岡崎市民会館

講 師 国立天文台教授

小久保英一郎 先生

本年度の夏季研修会では、研究テーマ「言葉に対する見方・考え方を広げ、学び合い、深め合う授業」に沿った授業提案がなされる予定でした。その中で、小学校中学年の「書く」で提案される予定であった、刈谷市立朝日小学校の渡部早紀先生の実践を紹介します。

研究主題は「構成を意識して書き、分かりやすく伝えることができる子の育成」三年『朝日小ピクトグラムコンテストを開こう』の実践を通してです。子どもたちが、文章の構成を意識して書き、分かりやすく伝えられるようになってほしいと願い、単元を構想しました。その中で、実際にピクトグラムを操作しながら、



ピクトグラムを操作して思考する児童

ら、トピックセンテンスを意識できるようなワークシートを用いて、授業を進めました。

単元の終末でピクトグラムの説明文を書く際には、段落や内容を意識する姿が見られました。また、自分が書いた説明文を見直す中で、分かりやすく伝えるために、順番を表す言葉に着目したり、トピックセンテンスを意識したりすること、文章を書き直す姿も見られました。

来年度の国語部会夏季研修会は、本年度の計画に沿って開催する予定です。

書 写

本年度、左記のように計画していましたが、来年度に延期としました。

令和二年度

書写実技講習会

場 所 岡崎市亀美丘会館

講演・実技講師 岐阜女子大学教授

中根 海童 先生

国語（書写）部会では、例年、講師に中根海童先生をお迎えして、書写実技講習会を実施しています。書き初め手本を使った実技指導は毎年好評をいただいています。昨年度は、筆の穂を整えることについて指導していただきました。穂をS字形にすることで、点画が整うこと、穂がまっすぐになり、墨をためておくことができるため、一字一筆が可能になることを教えていただきました。日頃の書写指導の中で、子どもたちに字を書くときの筆の形にも注目させてみてはいかがでしょうか。来年度は、皆さんと会場でお会いできることを楽しみにしています。



穂のS字形

社会

仲間とかかわりながら、
よりよい社会づくりへの
参画をめざす社会科の授業（三年次）

本年度、研修会を左記のように計画
していましたが、冊子による紙上発
表・開催としました。紙上発表は二
月に行う予定です。

令和二年度

社会部会夏季研修会

場 所 蒲郡市民会館

〈全体会・講演会・分科会〉

本年度、社会部会としての活動を行う
ことができていないため、社会部会の
テーマについて、掲載させていただきま
す。

【テーマについて】

「よりよい社会」とは、そこにかかわ
る人にとって、幸せを感じられる社会で
ある。様々な社会事象に出会った子ども
は、目の前やこれから起こりうる問題を
解決するために、様々な方法で追究し、
仲間と互いに協働する中で、自分の考え
を深め、学級や子ども自身が問題の解決
に迫っていく。そうした中で、自分の考
えと仲間の考えのよさをそれぞれ生かし
ながら、問題の解決をめざす子どもの姿

を求めたい。そして、問題の解決が見
えた先にあるのが「よりよい社会」であ
る。社会では、人は独りよがりな考えで
は生きていけない。互いの考えのよさを
認め合いながら、問題の解決のために協
働していく必要がある。子どもが、大人
になり自らが担い手となっていく社会を
見据えたとき、『よりよい社会づくり』
の必要性を強く意識し、主体的にあるべ
き社会を見通すことができるようにした
い。そして、子ども自身が『よりよい社
会づくり』に自らかかわっていきたくい
と思えるような社会のあり方を思い描ける
ようにしたい。

『参画をめざす』とは、新たな『より
よい社会づくり』へ参画するという行動
化だけをめざすのではなく、参画への意
識や意欲を高めたり、行動化へのきつ
けを作ったりする「参画していこうとす
る」姿もめざしているのである。『参画』
に行動化だけを求めていると、行動が
目標となってしまう。『よりよい
社会づくり』をめざす時に、現在の子
どもだけでは解決できないこと、未来に
起こりうるために現在の社会では何もで
きないこともある。子どもが未来におけ
る社会事象の変化に直面しても柔軟に対
応できるようにするために、「参画して
いこうとする」子どもの姿がたくさん見
られる授業づくりをめざしていきたい。

算数数学

「主体的・対話的で深い学び」の
実現に向けた算数・数学教育の実践

本年度、左記のように計画していま
したが、冊子による紙上提案としま
した。

令和二年度

愛知県数学教育研究会

小中学校部研究大会碧南大会

場 所 碧南市文化会館

碧南商工会議所

講 師 前茨城大学 特任教授

根本 博 先生

冊子には、小中学校あわせて十二の実
践提案を集録しました。

小学校低学年は、子どもが興味をもつ
て算数の授業に取り組むことができるよ
うに、生活の中にある疑問や問題を解決
する教材を用意し、グループやペアで話
し合いながら解決していく実践となつて
います。

小学校中学年は、授業中の発言や振り
返りの記述などに表れる子どもの思いを
授業に反映させた、子どもの主体性を大
切にした実践となっています。

小学校高学年は、友達の考えとのずれ
や違いから生じた課題を、根拠をもとに
した話し合いで解決していく実践となつ
ています。

中学校一年生は、操作活動を主軸とし、
友達と関わり合いをもちながら身近にあ
る比例関係を明らかにする実践となつて
います。

中学校二・三年生は、実験を繰り返す
ことで自分の考えを明確にしたり、ICT
機器を活用したりすることで、粘り強
く追究をし、根拠をもって自分の考えを
友達に伝える姿が見られるような実践と
なっています。

どの分科会においても、算数数学部会
の目ざす『主体的・対話的で深い学び』
の実現に向けた算数・数学教育の実践』
が発表され、充実した冊子となりました。



模様の形を見合う子ども

理 科

自然現象を主体的、協働的に追究し、豊かな心と創造力を培う理科学習

本年度、左記のように計画していましたが、来年度に延期としました。

令和二年度

理科部会夏季研修会

場 所 蒲郡市民会館

講 演 「理科教育×笑いⅡ」

「エデュメントで授業革命!?」

講 師 大阪成蹊大学 准教授

福岡 亮治 先生

本年度は、これまで理科部会で取り組んできた夏季研修会のみならず、毎年実験ブースの出版をしてきた「青少年のための科学の祭典 名古屋大会」も中止が決定しました。豊田、西尾、豊川、高浜の四地区の先生方が準備を進めてくださっていただけに残念でなりません。中止となる行事が多い中、第二回の委員会議では、各地区の理科の授業の現状を話し合いました。どの地区もこれまで当たり前に行ってきた実験・観察を伴う授業が十分に行えない現状であることを共有し、どうすべきかについて考える機会とすることができました。

また、本年度末には、平成三十年度からの三年間の研究を集録した「三河の理科教育 いま」を発刊する予定です。この中で、愛知教育大学教授による理科教



各地区での授業実践の様子

育への提言や、各地区の三年間の活動報告、日本理科学教育学会東海支部大会で平成三十年度以降に三河地区の先生方が提案してきた内容、愛知教育大学附属学校における研究の概要などを掲載する予定です。各地区の活動については、授業実践や、研修としてプログラミング学習や自然観察会、先端科学技術見学会など、地区それぞれが独自の活動に取り組まれており、理科教育を進める上で新しい視点を得られそうです。三年間の研究の成果や課題をまとめ、次の研究に向けてのステップとしていきたいです。

今後は、第三回委員会議を十一月に開催し、研究集録作成に向けた意見交換と、来年度の夏季研修会のもち方等について協議する予定です。本年度取り組みできなかったことを、更に充実した形で実践できるように取り組んでまいります。

生活科

新たな価値を創出し、

生活の中に生かす子ども

「子どもの思いや願いの実現をめざし、

学び続ける授業」

本年度、左記のように計画していましたが、来年度に延期としました。

令和二年度

生活科部会夏季研修会

場 所 ライフポートとよはし

講 師 文部科学省初等中等教育局

教育課程課 教科調査官

渋谷 一典 氏

生活科部会では、昨年度から新しいテーマを「新たな価値を創出し、生活の中に生かす子ども」の思いや願いの実現をめざし、学び続ける授業」と設定し、取り組んでいます。本テーマにおける「新たな価値」とは、学ぶ前には気づかなかったものの見方や考え方、さらに、学ぶことへの喜びに気づくことと捉えています。また、「生活の中に生かす」とは、新たな価値を創出し続けることで、その価値が自分のものとなり、自身の生活をより豊かにしていくと考えています。

分科会では、三つに分かれ、計六地区（豊橋、蒲郡、新城、幸田、豊田、刈谷）の提案発表を予定していました。会場地

区の豊橋市立牛川小学校・豊田三鈴先生は「人とかかわりを通して、学校への愛着を深め、自ら考え、行動しようとする子の育成」という主題を掲げ、気づきを生み、生活の中に生かす実践を行っていました。

講演会では、文部科学省の教育課程課教科調査官である渋谷一典様をお招きして、ご講演をしていただく予定でした。

令和三年度は、第二十八回愛知県生活科教育研究会となります。今年度開催地区であった豊橋の「ライフポートとよはし」にて開催を予定しています。「新たな価値を創出し、生活の中に生かす子ども」の思いや願いの実現をめざし、学び続ける授業」のテーマのもと、各地区（前述の六地区）の熱意ある実践の提案発表もあります。学び多き場となるよう準備を進めていますので、多くの方々



配膳室を見に行く子どもたち

造形

子どもの思いが広がる造形教育

本年度、左記のように計画していましたが、来年度に延期としました。

令和二年度

造形部会夏季研修会
場所 豊田市和紙のふるさと
研修内容 豊田小原和紙の制作実習

本年度は、四年に一度の研究集録出版の年となり、各地区で実践された小学校九実践、中学校十実践の計十九実践が報告されました。その中から、蒲郡市立西浦小学校の酒井惟先生による小学一年生図画工作科実践「部屋が海にへんしんとっておきの船をつくって遊ぼう」を紹介します。

授業ではまず、生活科で行った温泉体験や西浦中学校の生徒との交流など、身の回りの地域に関わる学習によって、子どもたちが海に囲まれた自然豊かな西浦町のよさを実感できるようにしました。また、国語科の説明文「いろいろなふね」の学習と関連させて、「漁船は西浦にもあるよ。」という子どもの声をきっかけに、漁港での乗船体験や運転席の見学によって、船づくりに向けた思いを育みました。

波の音が流れ、床一面を海に見立てたブルーシートの敷かれた教室に入った子どもたちは、「西浦の海だ。」と声が上が

るほど心を躍らせて、用意された段ボールを用いた船づくりに取り組みました。また、家庭から持ち寄った材料を集めた材料BOXや、自由に使える用具を入れた道具BOXなど学習環境を整えることで、子どもたちは、自分の思いに合わせ、試行錯誤しながら材料を組み合わせたたり、材料に応じた用具の扱いを身につけたりしていきました。船の土台ができると、漁船を見学したときのイメージから発想を広げて、望遠鏡やハンドル、オールや綿が飛び出す銃などを加えていきました。「船自慢タイム」と名付けた相互鑑賞会では、互いの船のよさを認め合う姿や、自らの活動に充実感を得る姿が見られました。子どもたちの「やってみたい」という意欲を引き出し、材料と体全体で関わる題材によって、思いを広げて船づくりに楽しむ姿が見られました。



笑顔で手づくりの船に乗る子ども

英語（外国語活動）

グローバル社会を

生き抜く英語力の育成

本年度、左記のように計画していましたが、冊子による紙上提案としました。

令和二年度

英語（外国語活動）部会夏季研修会

場所 新城地域文化広場

研究発表・研究協議

四分科会（小学校二、中学校二）

講演 「小学校外国語科の授業をやってみて分かったこと、できたこと」

できたこと

講師 尾張旭市立東栄小学校

外国語専科

鈴木由季子 先生

本年度の英語（外国語活動）部会は、「グローバル社会を生き抜く英語力の育成」という研究主題を設定した研究初年度でした。平成が終わりを告げ、令和の新しい時代が幕を開けた昨年度。平成の時代にもたらされた技術革新や、人・モノ・コトの高速移動は、令和の時代もさらに進歩します。これまで以上に日本は世界とふれ合い、考えを交換し、世界を共に創りあげていく時代が予想されます。

日本人だけで社会を構成していた時代から、外国人労働者を受け入れ、共に社

会を創っていく時代になります。世界にルーツをもつ日本人が増えてきています。世界の人とコミュニケーションをとるためのツールとしての英語だけでなく、思いや考えに耳を傾け、自分の考えを構築していく態度や技能が求められてきます。多様性が叫ばれる日本社会において、言葉だけが一人歩きするのではなく、多様な見方や考え方ができる人材を育てるためにも、英語力の育成が求められます。

このような考えをふまえ、研究初年度として実践に取り組みしました。

当初予定していた夏季研修会では、みよし市立北中学校の鈴木愛理先生、設楽町立津具中学校の千原未織先生、田原市英語部会、岡崎市立岡崎小学校の立石安祐美先生、以上の先生方の研究発表、そして研究協議会を行う予定でした。これらの先生方の研究発表については、本年度発行する研究集録に実践内容を掲載しています。

また、尾張旭市立東栄小学校、鈴木由季子先生による講演会を予定していましたが、小学校外国語科の授業実践についてご講演いただく貴重な機会でしたが、小学校の教科書を中学校に配付し、小中連携を考える紙面研修に変更しました。

最後に、子どもが今まで以上に英語に親しみ、コミュニケーションに向かう積極的な態度を養えるように、初年度の反省をふまえて、二年目の実践に取り組めます。

道徳

豊かなかわりの中で自己を見つめ、よりよく生きる子供を育てる道徳教育

三年に一度、三河で開催する愛知県道徳教育研究大会を、左記のように豊川市で開催する予定でしたが、冊子による紙上発表・開催としました。

第五十八回愛知県道徳教育研究大会

豊川大会

場 所 豊川市立小坂井東小学校
公開授業 小坂井東小学校 各学級
講 師 文部科学省初等中等教育局
教育課程課 教科調査官
浅見 哲也 氏

分科会提案者

・小学校低学年部会 名古屋市立宝小学校
岡田 陽介 先生
・小学校中学年部会 蒲郡市立蒲郡北部小学校
中山 心太 先生
・小学校高学年部会 弥富市立白鳥小学校
木村 友紀 先生
・中学校部会 知立市立知立中学校
後藤 裕考 先生

十月末に愛道研大会要項を発送して、発表に代えさせていただく予定です。冊子には、公開授業を予定していた豊川市立小坂井東小学校の研究概要や、記念講演をお願いした浅見哲也様からいただいた資料を掲載する予定です。

道徳部会の特色として、年三回「道徳ニュース」を発行していることがあげられます。六月の発行で一七六号となりました。道徳教育が三河各地に広がっていくようにという願いを込めて、各学校に配付しています。

また、年三回開催する三教研道徳部会委員会議では、必ず委員研修の場が設定され、講師による講義が行われます。講師は主に道徳部会の役員や特別常任委員が担当しています。令和二年度の第一回委員会議では安城市立安城南部小学校杉浦和明校長に「道徳の評価を踏まえた道徳科の授業改善」と題して講義をしていただきました。

愛道研大会は、尾張地区、名古屋地区とローテーションを組んで開催し、愛道研大会を三河で開催しない年度は、夏季研修会や研修集録の作成を行っています。

これからの愛道研大会や夏季研修会、研究集録とともに、道徳ニュースや道徳部会の委員会議などを通して、大会主題である「豊かなかわりの中で自己を見つめ、よりよく生きる子供を育てる道徳教育」を発信していきます。

特別支援教育

一人一人の子どもの教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実

本年度、左記のように計画していましたが、来年度に延期としました。

令和二年度

特別支援教育部会夏季研修会

場 所 三好公園総合体育館

みよし市立天王小学校

分科会

校内支援体制と学級経営
教科学習
交流及び共同学習
生活単元
作業・進路
個別支援・発達障害等への支援
通級指導

現在、学校教育のあらゆる場で、特別な支援を要する子どもに対して必要な指導・支援を行うことが、当然のこととして理解されるようになっていきます。そして、平成二十九年四月には、特別支援学校の幼稚部及び小・中学部の学習指導要領が告示されました。この学習指導要領の中では、これまで推進されてきた、一人一人の教育的ニーズに応じた教育をより具体的に実現することが求められています。

そのような時代の中、特別支援教育部

会では、各地区のさまざまな実践のもとに、協議したり、情報交換したり、集録としてまとめたりする活動を通して、より確かな指導法・指導内容等を明らかにしたいと考え、活動を行っています。研究の十一年目にあたる本年度も、研究テーマ「一人一人の子どもの教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実」に沿い、夏季研修会においても授業提案がなされる予定でした。本年度の委員会議では、各地区の取り組みを来年度の研究に生かすよう、課題と成果について話し合うよう計画しております。

来年度の夏季研修会は、豊川地区にて開催予定です。本年度発表予定であった提案は、来年度に発表をしていただきます（変更のある提案もあります）。すばらしい実践ばかりになっていきますので、来年度、またご参加いただけたら幸いです。よろしく願います。



「ピザ・なのはなオープン！」の実践
(生活単元分科会)

総合的な学習

主体的・協働的に探究し、
よりよく課題を解決する

総合的な学習の授業（一学次）

本年度、左記のように計画していましたが、来年度に延期となりました。

令和二年度

総合的な学習部会夏季研修会

場所 安城市文化センター

講演 「探究心をもって

講師 総合的な学習の時間に挑む」

講師 愛知教育大学 教授

加納 誠司 先生

分科会（提案と研究協議）提案地区

豊田・豊橋・岡崎・豊川・安城

西尾・刈谷・田原・高浜・みよし

本年度の夏季研修会では、愛知教育大学の加納誠司先生より、「探究心をもって総合的な学習の時間に挑む」という演題の下、講演をいただく予定でした。左記、予定されていた講演内容です。

次世代の教育では、子ども一人一人が未来の創り手となって、予測困難な時代を生き抜いていく資質・能力の育成が求められています。そんな中、総合的な学習の時間の役割は、探究的な学びを学校のエデュケーションに確立することです。切実感をもって設定した課題を解決するため、調べたことを整理分析し、まとめ、表現していく。この探究過程において、子ども自らが学びの主役にならなければ、自分の最適解に行き着けません。課題解決のプロセスに「自ら」を保障することで、子どもの探究心は、ますます逞しいものになっていくのです。総合的な学習の時間の信条は、この探究心をもって学びに向かうことだと考えます。

加納先生には、令和三年二月の役員・委員会委員、そして来年度の夏季研修会でもご講演いただく予定です。加納先生から教えていただいたことを胸に、各地区で実践を重ねていきたいと思います。

また、来年度は前述の十地区より、実践が提案されます。例年、各分科会で熱心な意見交換や、助言者の先生のご助言により、充実した時間を過ごすことができています。来年度の夏季研修会へのご参加をお待ちしています。

令和三年度 発表予定

刈谷市立小高原小学校 高津 真

ゲストティーチャーの話を聞いた
り、夢の実現に向けた「夢アクション」を計画したりすることを通して、自分の将来を見通し、夢や目標に向かって努力を続けようとする児童の育成を目指しました。来年度、よろしく願っています。



パティシエとして働く
Aさんの話を聞く

今後の

研究会・研修会のご案内

*保健体育部会秋季研修会

10月27日（火） 田原文化会館

*愛知県造形教育研究会総会

第55回愛知県造形教育協議会

11月20日（金） 津島市文化会館

三教研ホームページのご案内

三教研ホームページ 活用してみませんか？

授業づくりの
ヒントに！

現在の指導案収録件数 **300** 件

研修の
参考に！

すべての子どもの笑顔のために

学習指導案検索

学年、教科等のカテゴリとキーワードで学習指導案が検索できます。
授業づくりや自己研修のために役立ちます。ぜひご利用ください。
一層充実させるため、会員のみなさまからの学習指導案の提供をお待ちしております。

CONTENTS

三河教育研究会について | 掲載済み教材 | バックナンバー | 活動予定・日程 | 活動記録・資料

「ホームページでこんなことができないか」「ここを充実させてほしい」等
三教研ホームページに関してのご意見を事務局までお寄せください。
アドレス： <http://www.sankyoken.jp/>



編集後記



新型コロナウイルス感染症が世の中を席巻して半年以上が過ぎました。未だ、出口の見えないウイルスとの戦いが続いています。例年、この時期の「みかわ」では、夏季研修会や授業力養成講座の様子を紹介しておりました。しかし、今年度、多くの部会が研修会や研究会を中止したり紙上発表に変更したりしました。本号では、各部会・委員会の取り組みや夏季研修会で提案する予定だった実践紹介、講演内容等を掲載しました。「新しい生活様式」の中で三河の教育をどう高めていくか、各部会・委員会が今後向き合っていく課題となるでしょう。

ご多用の中、原稿をお寄せいただいた皆様に感謝申し上げます。

表紙の写真

「うーん。これからどうなる？」

撮影 蒲郡市立三谷東小学校

菰田 泰可先生